



SPEED RUN DOWN

FAR BEHIND?

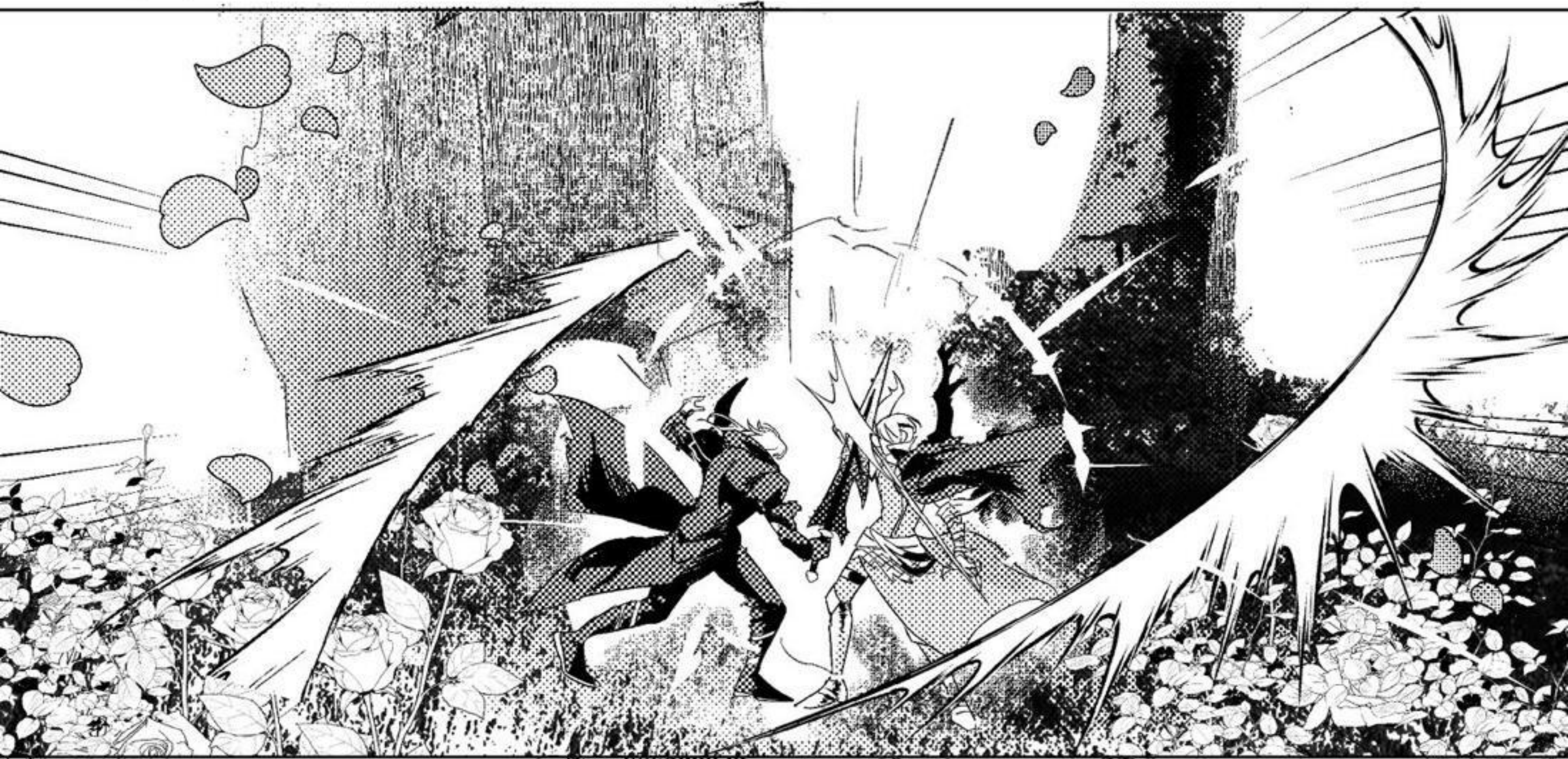
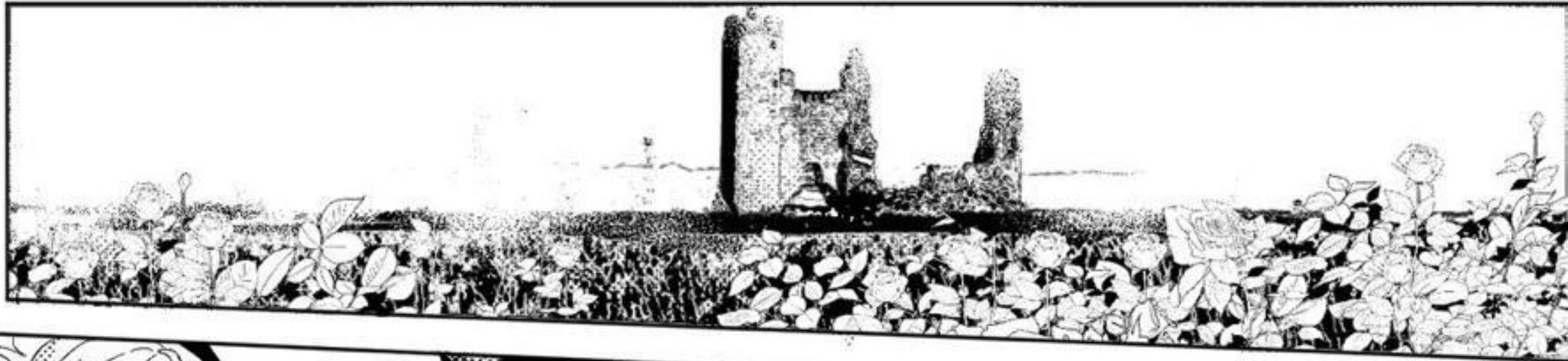
Beelzebub x Satan
MEGIDO72
unofficial fanbook #6

Presented by ADORagon



ATTENTION

メインストーリー110話公開時に描いた本です。
齟齬が生じる可能性があります。






「狙い」が筒抜けだ

ヴィータ体に慣れて
いないオマエより
私が上手だ サタン

ハッ


見くびるなよ
ベルツ!!!





確かにオマエに
勝つ可能性はある、が

これ以上は「遊び」ではなく
命を奪い合う「戦争」となる



続けるようなら
私が降伏する







オマエのその
煮えきらねえ態度が
気に食わねえ

一度も俺に
斬りかからなかった！



オマエに
その気がなかったら
ノって来なかったはずだ

違うか？

.....



ベル
勝者の義務を果たせ

——敗者である俺の
「処分」を決める！

ベルと喧嘩した

分からねえ感覚を
得るためだ
なぜ積極的に色んな手を
試そうとしねえ

未知なるものを知ろうと
しているからこそ
慎重にいくべきだ

…オマエはそんなに
早く切り上げたいのか？
この「実験」を

…!

…!

負けたから俺は
結果を尊重する
だが納得はしてねえ

ベルのためにヴィータ体を
得た時からとことんまで
付き合うつもりだった

ただ寄り添うことも
性行為ってヤツも

手がかりになるなら
なんでも試す価値は
あるように思えた

ベルは戦争に対してメギド一
慎重なのは知ってるが
最近は一歩に度を超えてる



ベルは
俺と特別な仲に
なりたいんじゃないかねえのか



なあベル

俺相手に勝てる
メギドはそうそう
いねえぞ

「命令」はこれだけで
いいのかよ



命令ではない
日が二度昇る間
私と共にいるようにと
お願いしたので

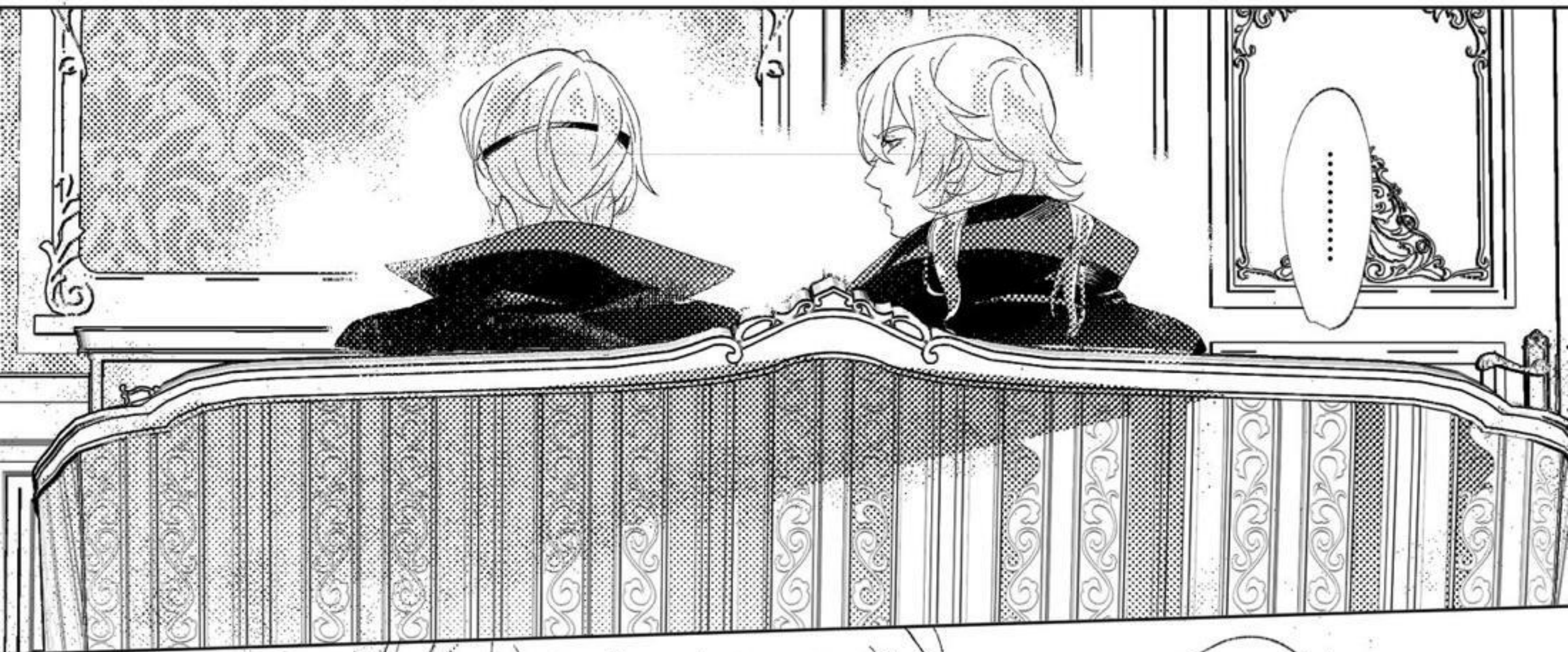
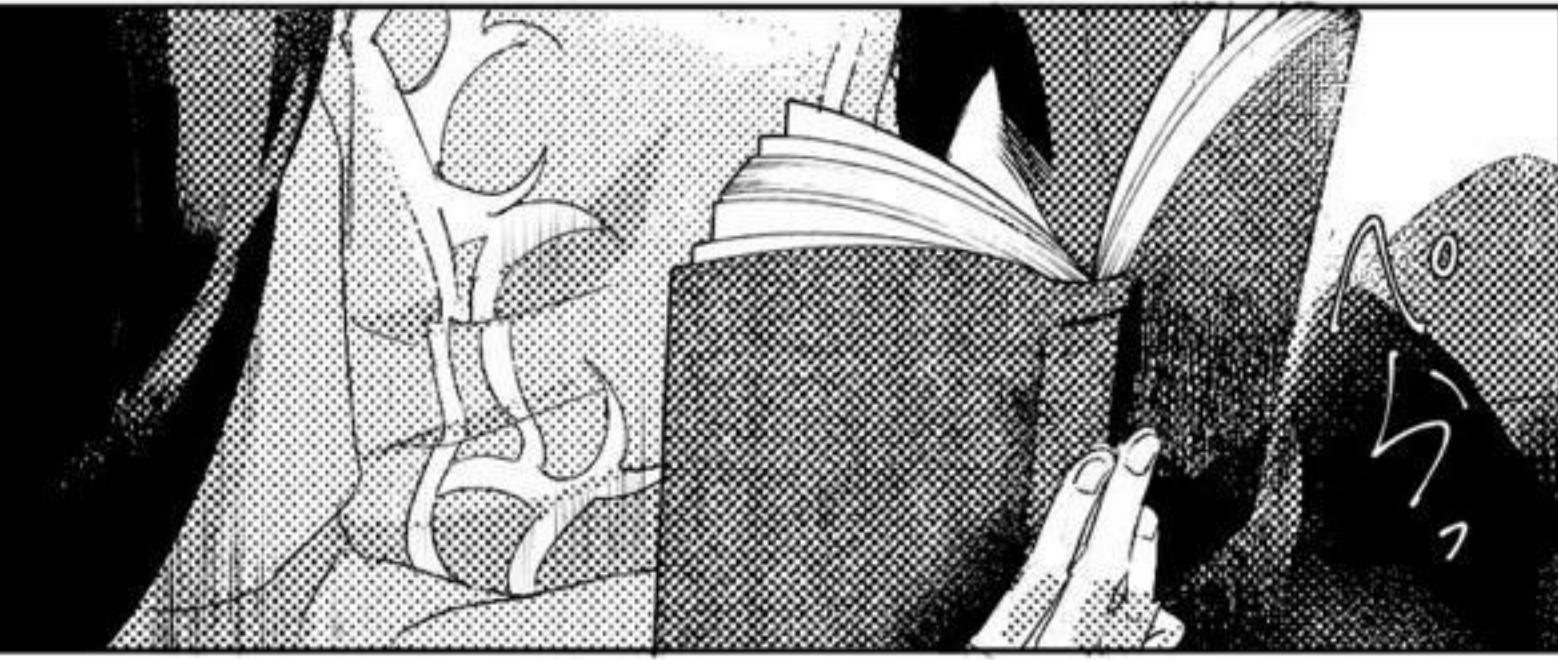
だからそれ
いつもじゃねえか

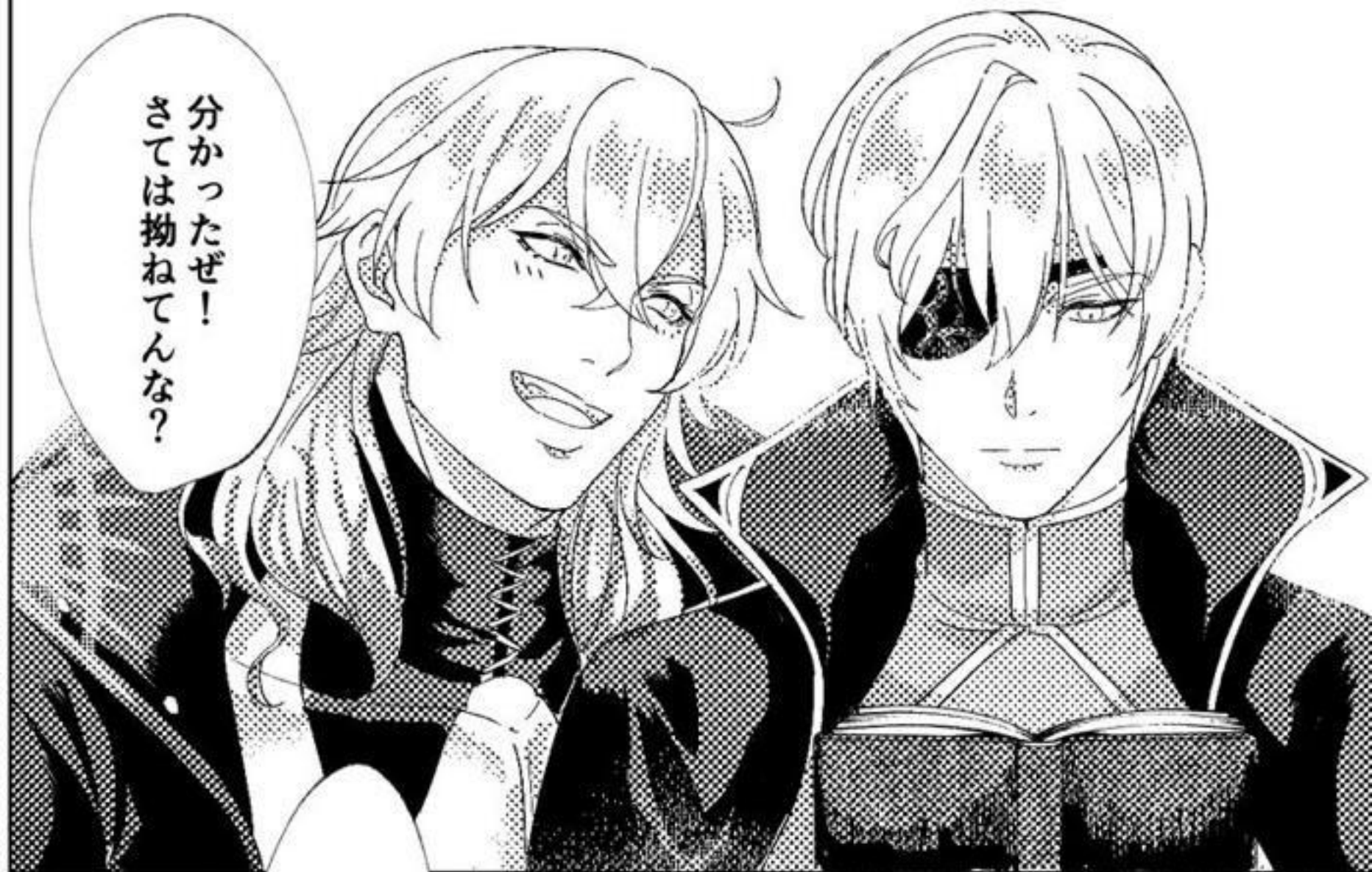


「いつも」ではない
私たちが手合わせ
した後もだ

オマエは
戦争をしに行き
数日間戻って
来なかった

あ？
そりゃ…





分かったぜ！
さては拗ねてんな？



へ



ル



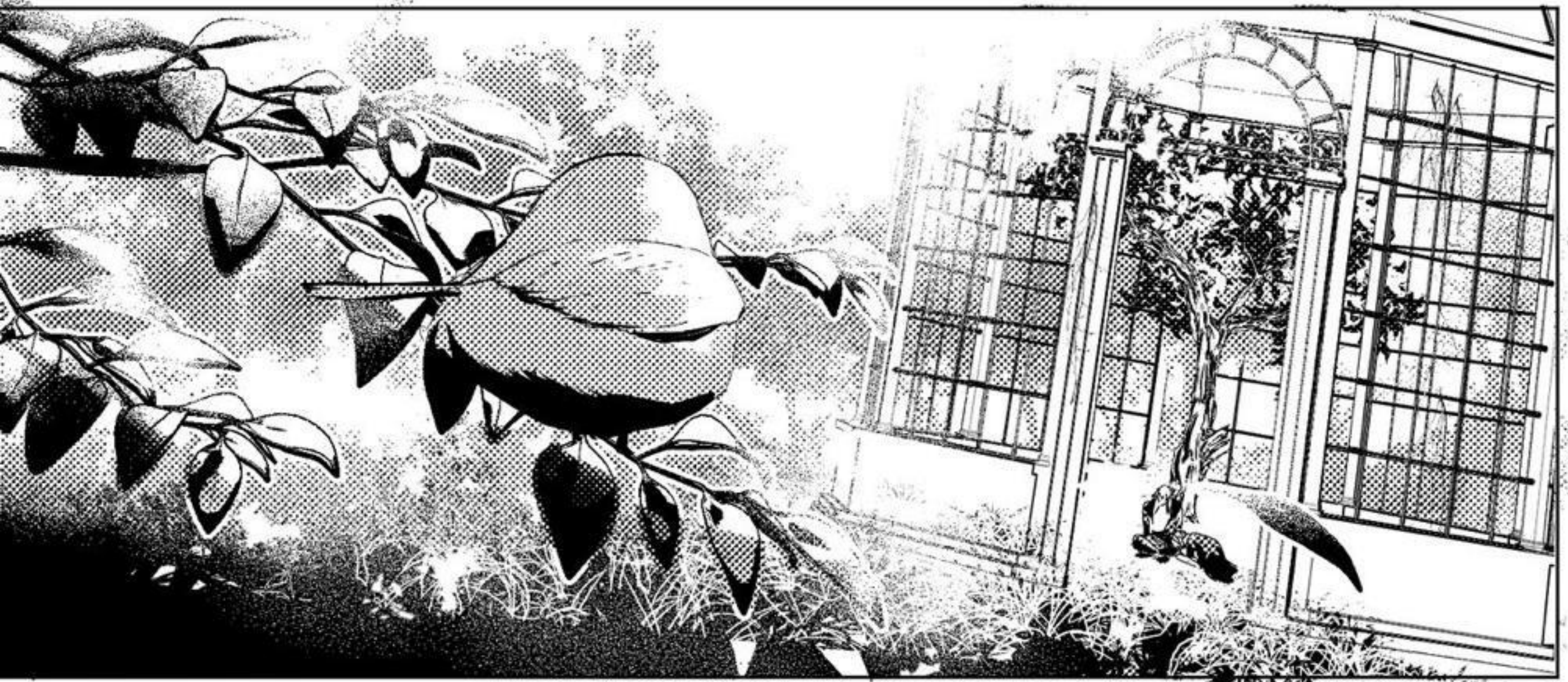
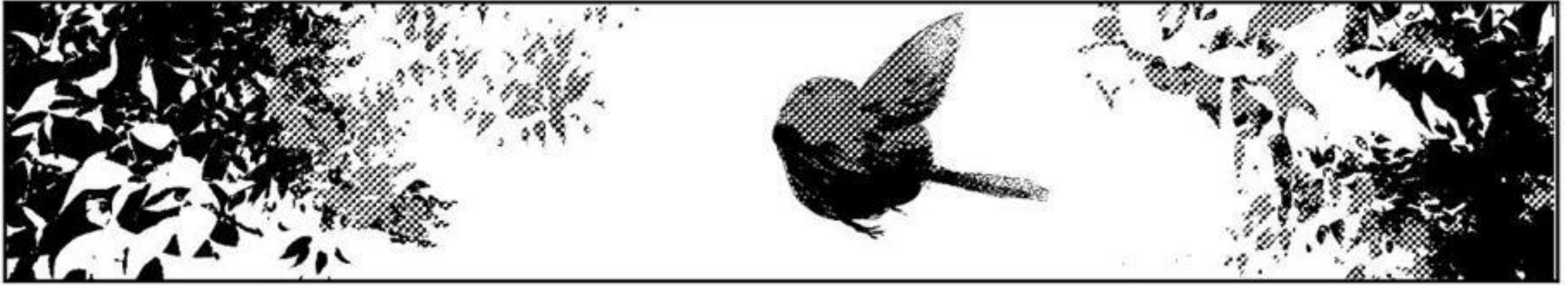
すまない
オマエの言う通り
私はいじけているらしい

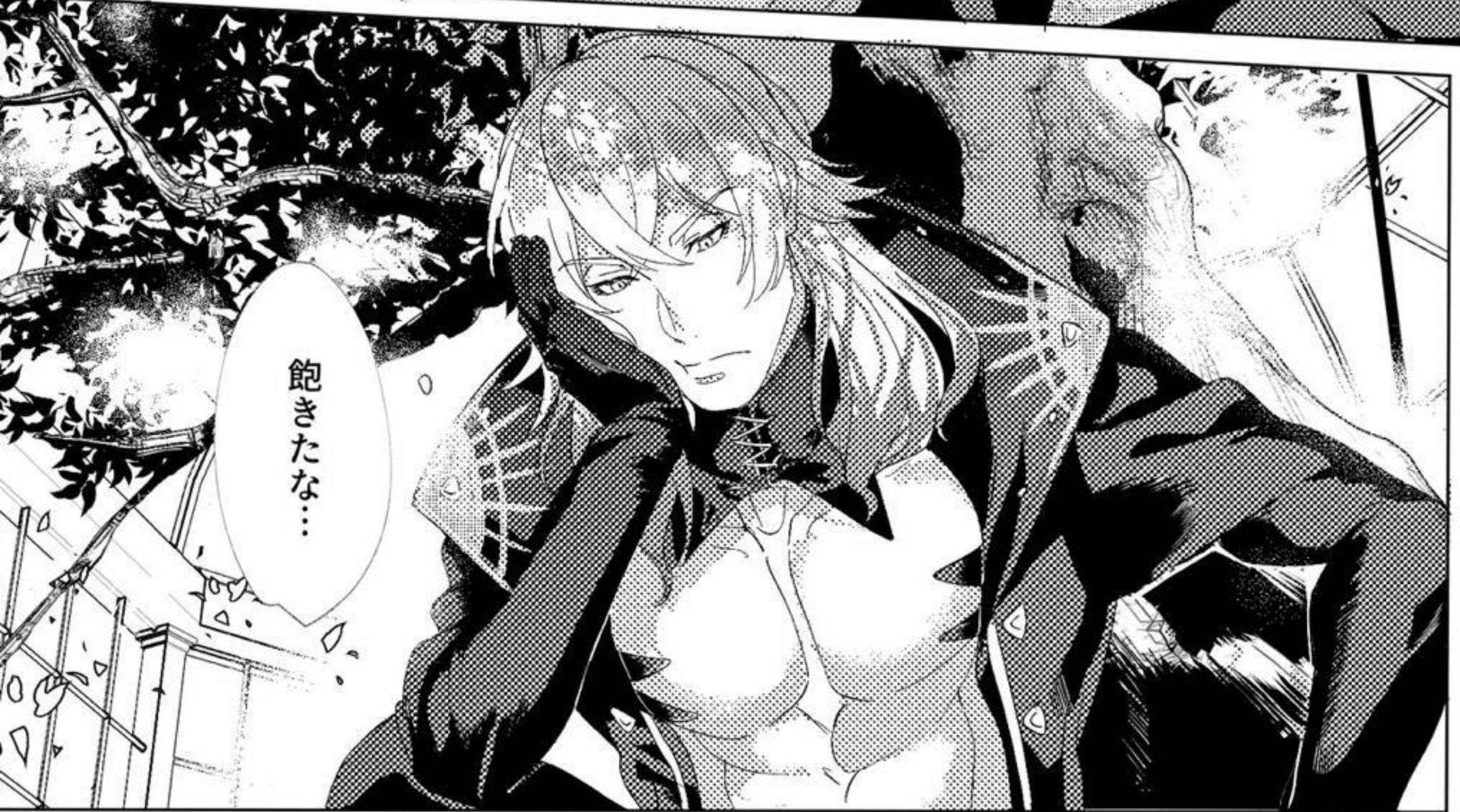


…凶星だからって
こりやねえぜ

本心なのだ
オマエと共にいたい
気持ち

どうか
私の我儘に付き合っ
てもらえないだろうか







俺をほったらかして
寝てやがるぜ
ムカつくよな

オマエもベルが
気になるか

幻獣じゃねえ生き物が
寄ってくるのは珍しい
ウィータ体が無害に見えたのか

暖かい時期は獣が増える
繁殖する季節だつて
ベルに聞いた



おいおい

あまりちよっかいを
かけるなよ

コイツは俺の
「ツガイ」ってヤツに
なる予定だからな





起きてたのかよ

ククク……

笑うな！



あ……



ぷっ



……ではサタン
オマエの意見を
聞かせてくれ

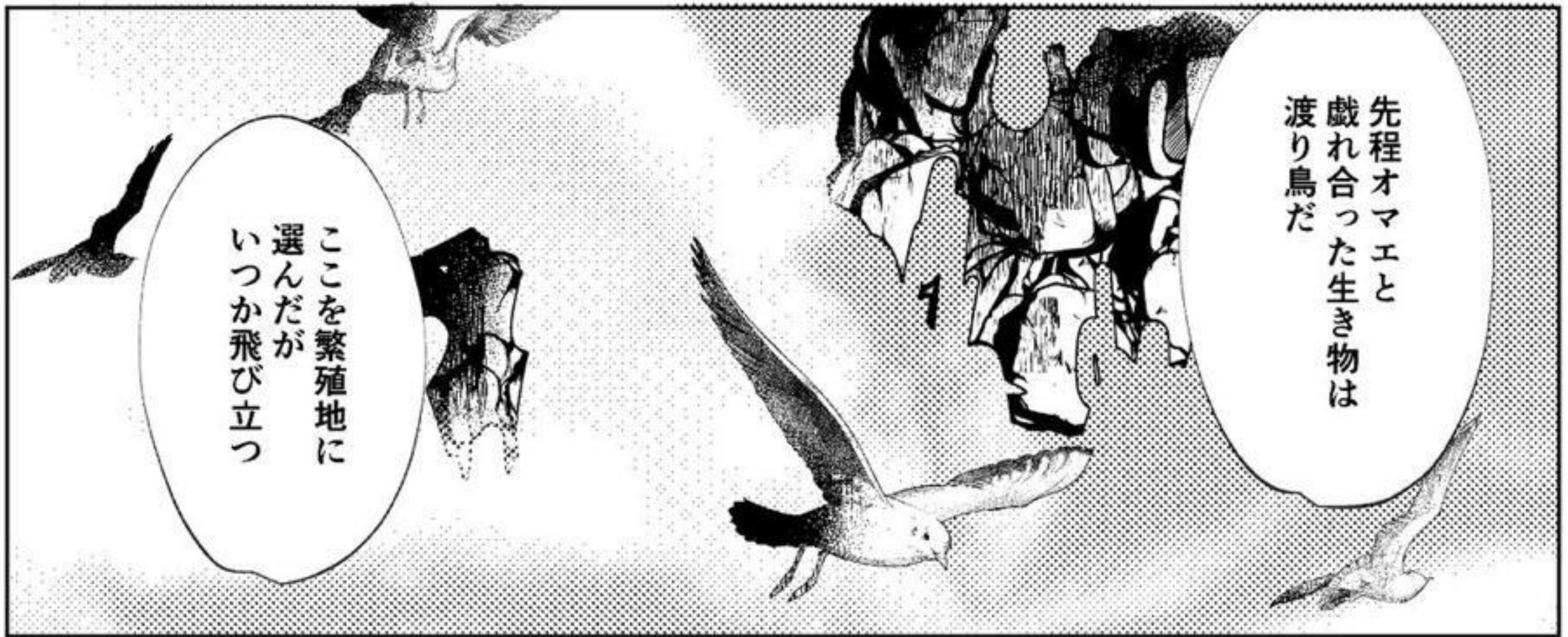


すまない
目を覚まして
オマエがいることが
嬉しい



だからそれ
当たり前だって
言ってるだろ

なにが不満なんだ？
ベルゼブフ様はよ



先程オマエと
戯れ合った生き物は
渡り鳥だ

ここを繁殖地に
選んだが
いつか飛び立つ



いつか帰ってくるかも
しれないし
二度と姿を見せないのかも
しれない

その者の選択に
仮に、だ
私が介入する



それをよく思って
ねえってわけか？

違う
ただの思考実験さ



もし
失わないために
尽くすでしょう

それは個への侵略であり
留まり続けるその者たちは
果たして「渡り鳥」と
呼べるのだろうか

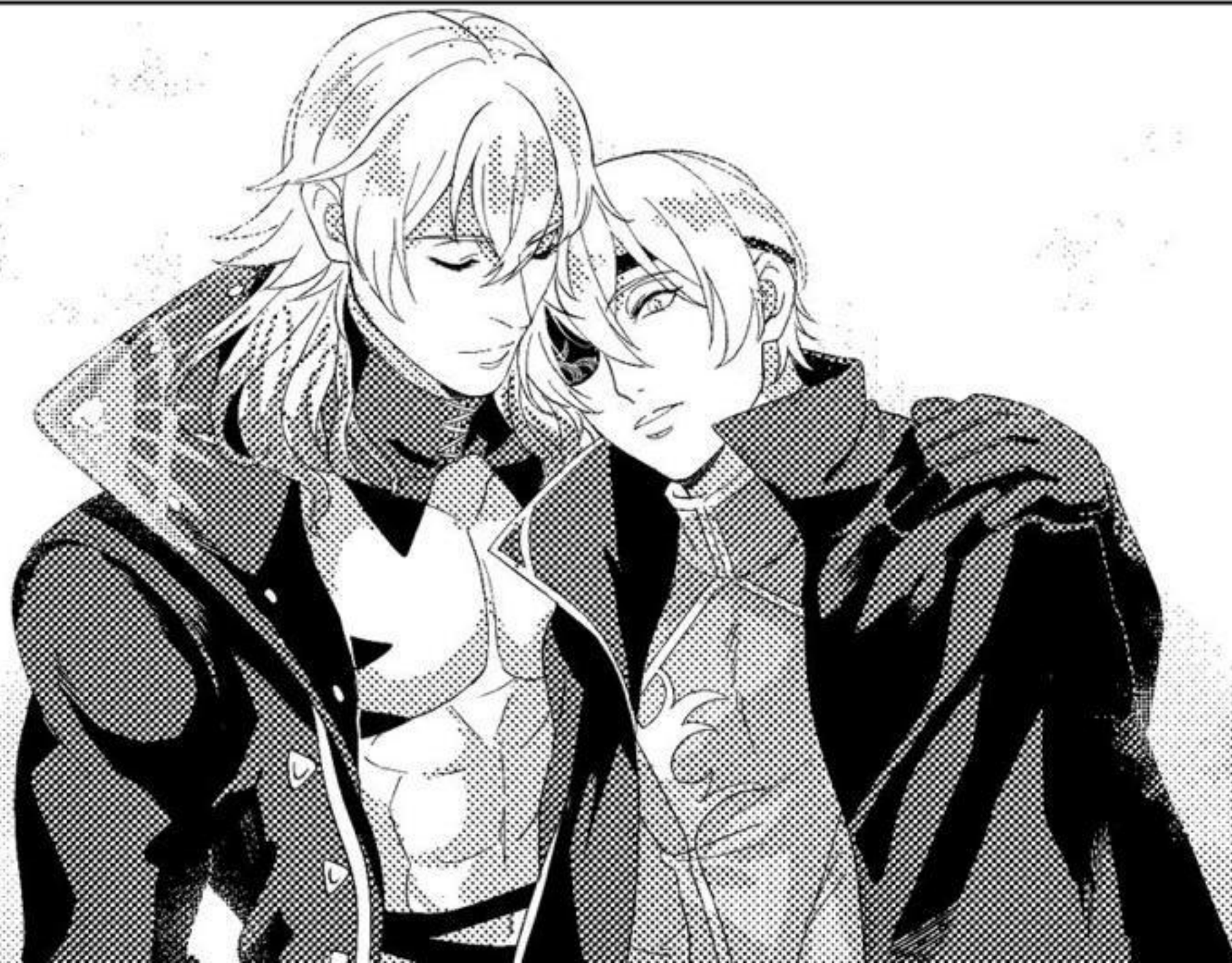
もし
失うことを甘んじて
受け入れるとしよう


それは己の個に対する
不誠実であり

全ての行動の根本にあるのは
傲慢であると
認めることになるの
ではないのだろうか…



ベル

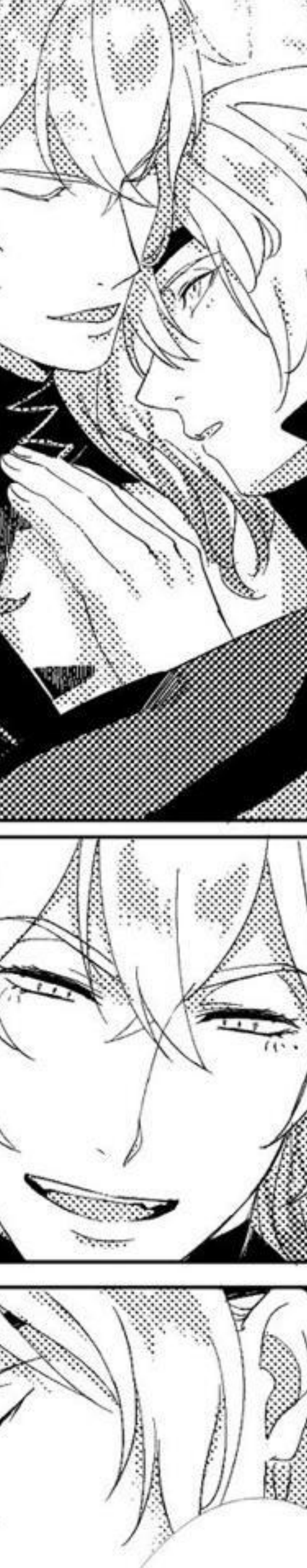




オマエの苦悩に
対する答えを俺は
持ち合わせちゃいねえ


だが
こうやってオマエを
抱きしめられる

できると
知ったんだ



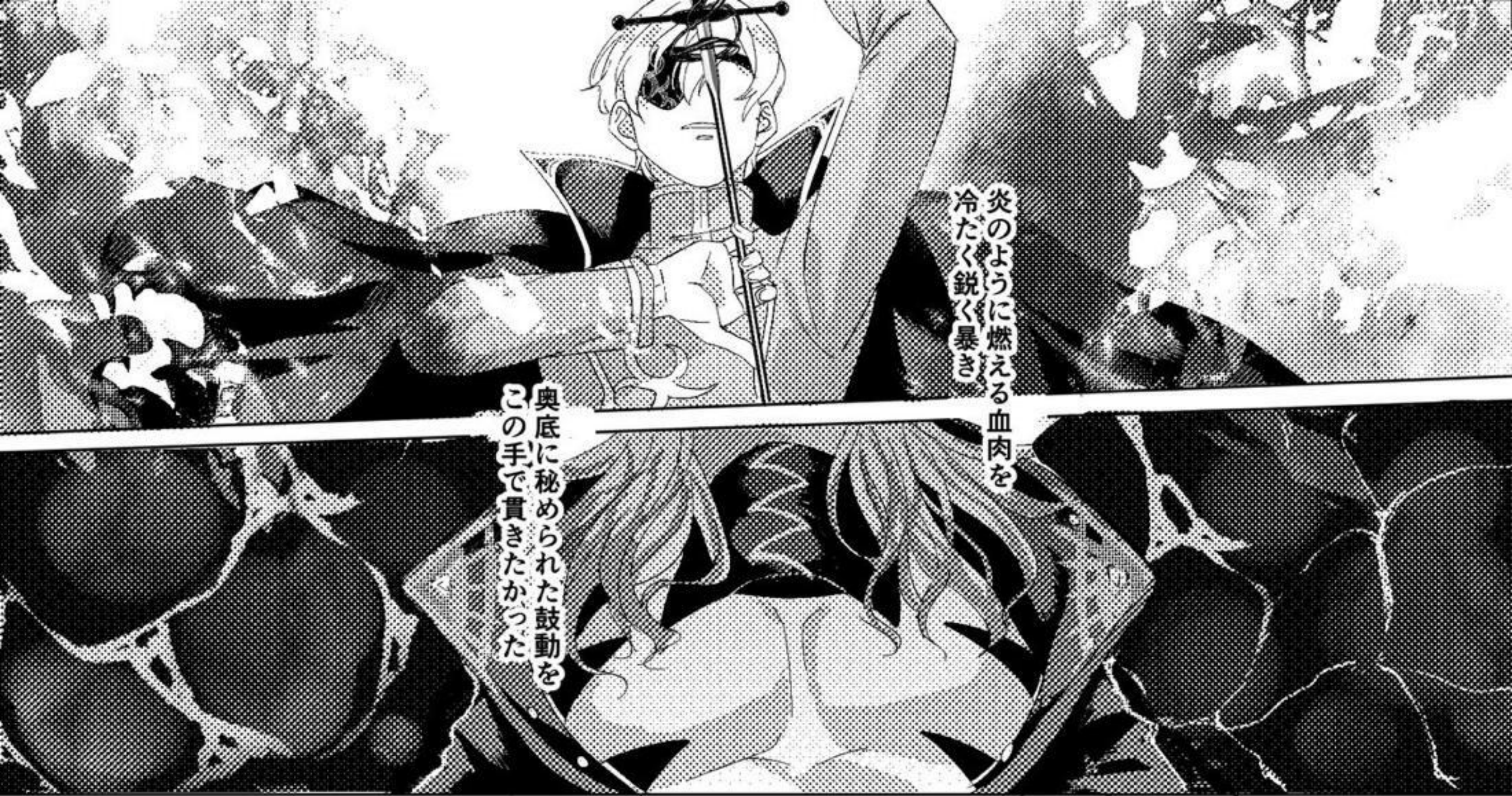
戦って個を主張する
以外の手段を…
この俺がだぜ

ベルもベルなりの
結論を見つけるさ



サタン
オマエの思う以上に
私は愚かなメギドなのだよ

あの時本当は
膝をついたオマエを…



炎のように燃える血肉を冷たく鋭く暴き

奥底に秘められた鼓動をこの手で貫きたかった



オマエをとどまらせる術などどこにもないと知りながらくだらなく下劣な空想を…

一瞬でも私はしてしまったのだ



…サタン？

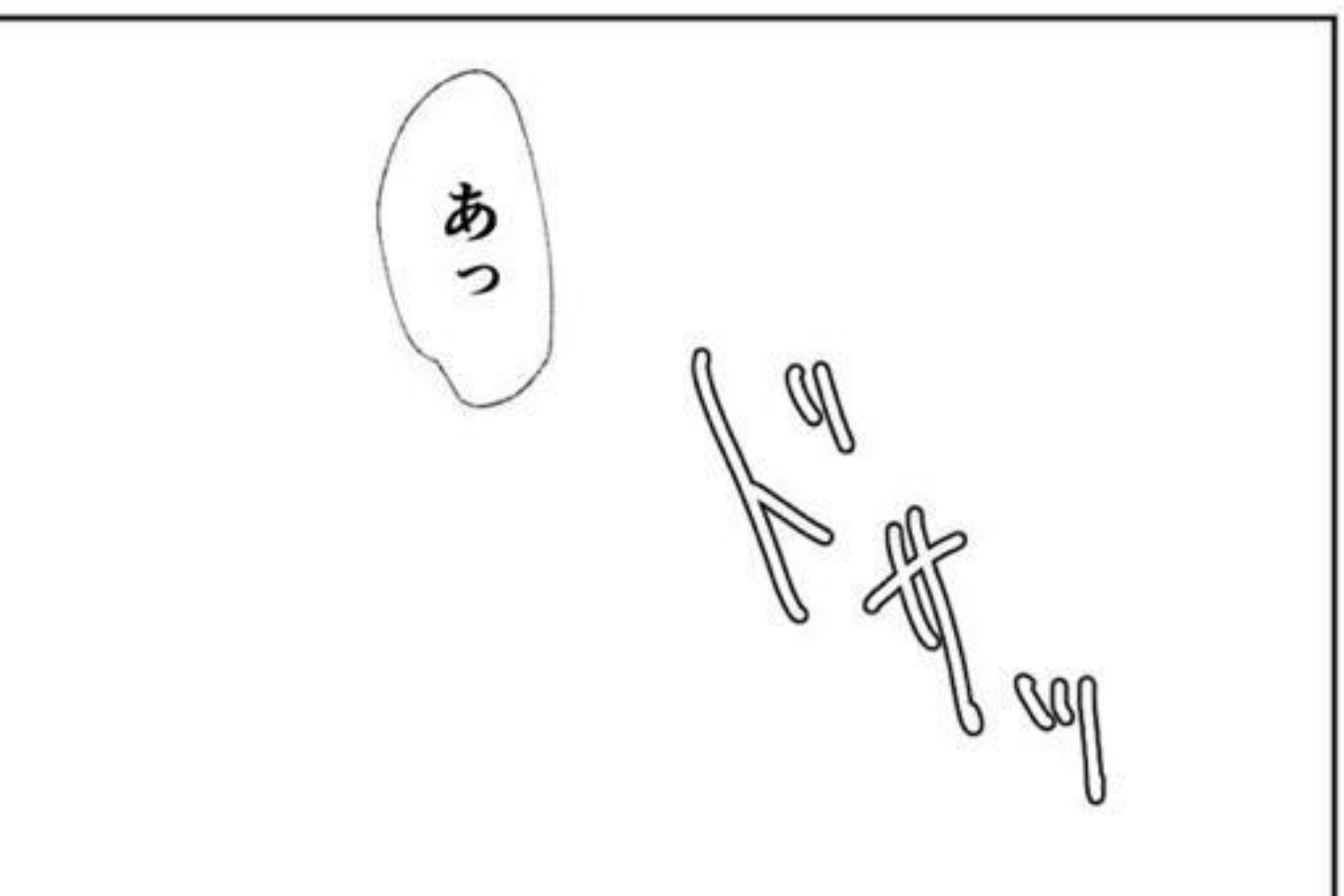


すまない
オマエを侮辱するつもりでは…











俺にさあさあ
おせよ

待て

や
やめてくれ

あははは



…もう一度
キスしても？





—だから
ベルがやりてえなら

なんでも付き合おうって
言ってるだろ！

—
—
—